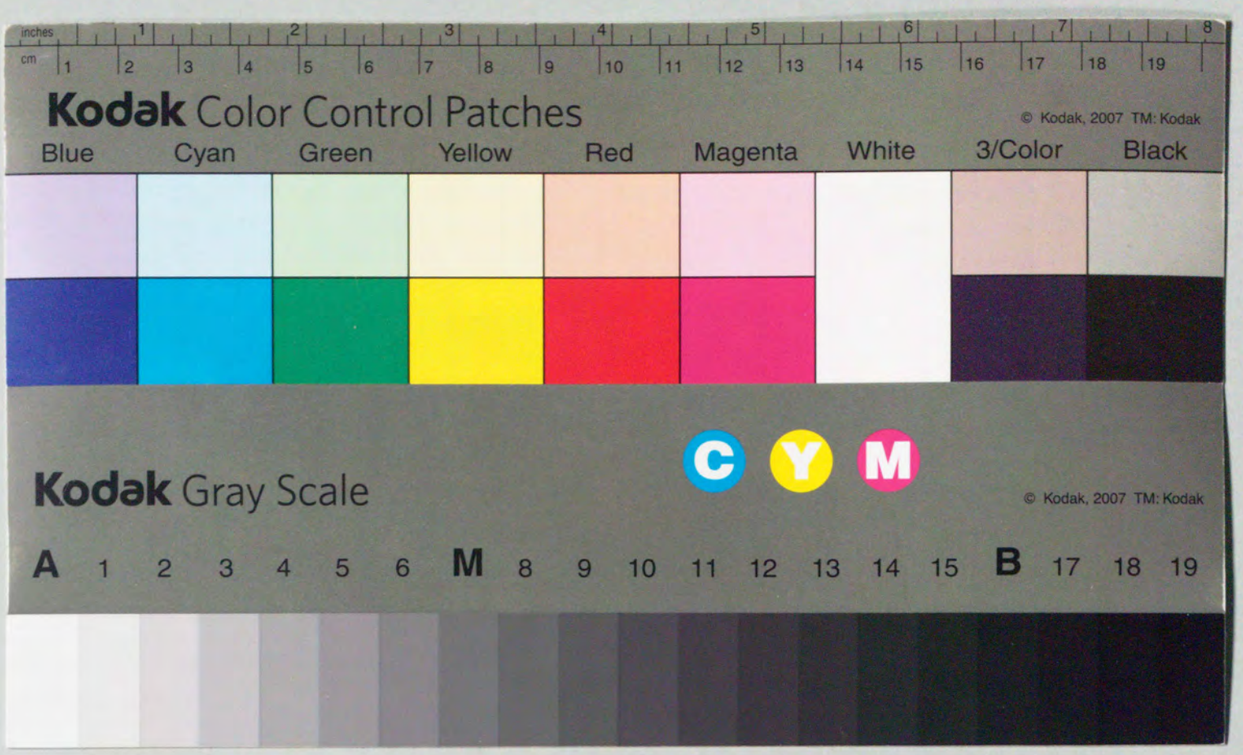
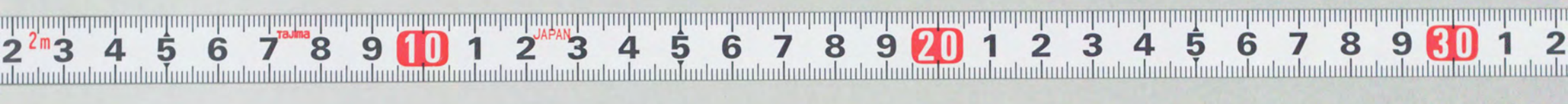
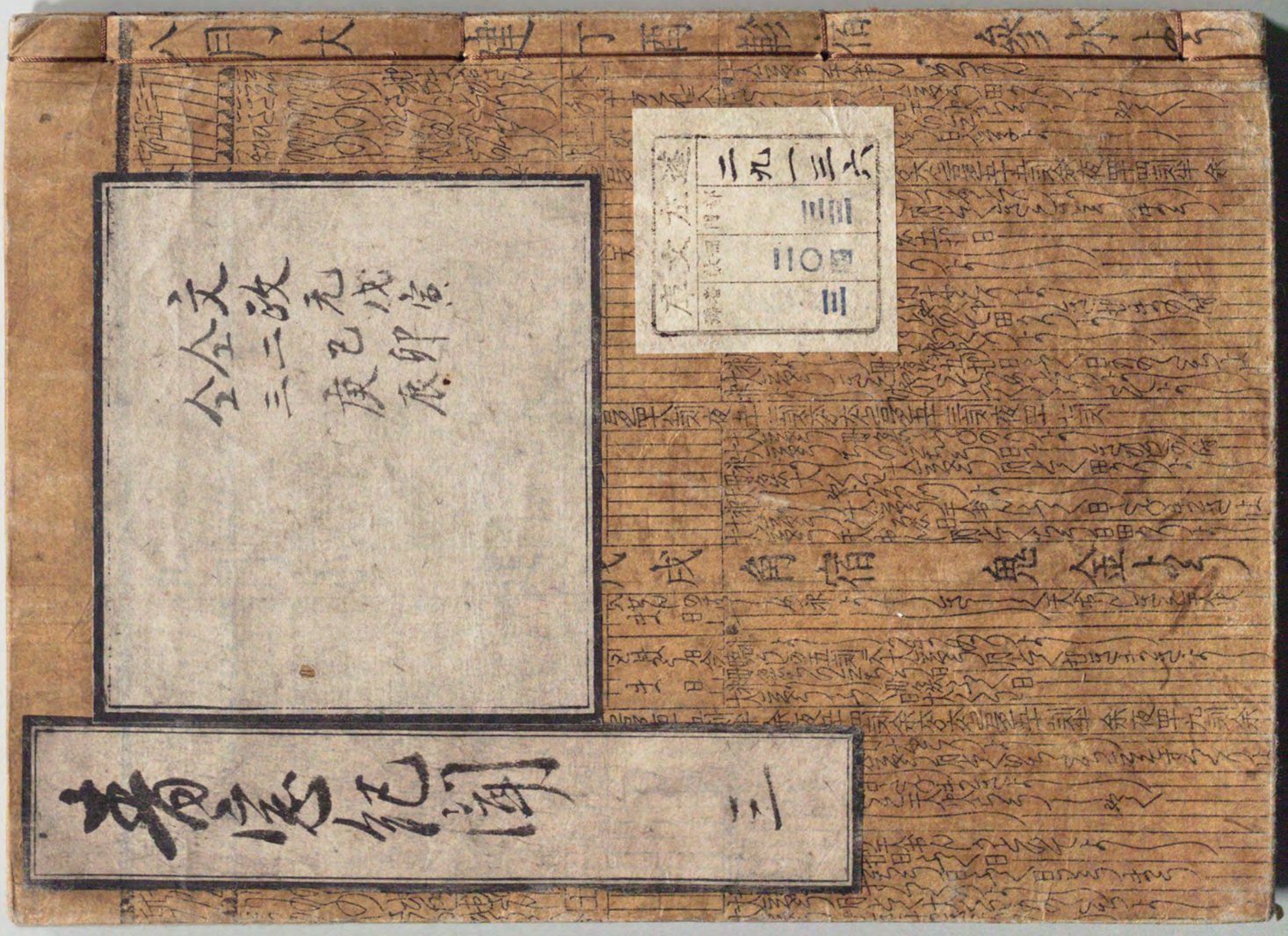
1


Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



33-3 青窓紀聞 巻3



文政元戊寅　豪潮餐名
家或大権現　宝篋印塔
米價下直
六月十二日大地震
又大雷
猛米安

今二己卯

今三庚寅　妙聖寺宝物　七月
大水　　　奥田濱波新堰
米安粒ゟ降容故　九月大須堰荏是

蓬左文庫
張州

巻之三

文政元戊寅年

○四月廿日出来府英藥大我寺宝蔵滝并の滝の形
お験今日滝根ゟ今始の弐あり午刻ゟ神て掃去
程なく時の滝ハ四ツ半ゟ

○二月廿ゟ来六月廿大ゟ光相見ゟ神ゟ恐しく
ゟ光ゟ白気ゟ如く其音雷雨ゟ似ゟ三百ゟ夜
ゟ内ゟ有り

○二月廿一ゟ日ゟ三ツ半ゟ頃ゟ西ゟ方ゟ雷ゟ鳴



二日目

久お櫻
多喜
悪右衛門
那須

扇
佐和之
舞子
谷次
田村
四宇
三輪

小林平新
寺隆家
古井平八
山田收

葵の上
無坂
融
佐和之
谷二
藤蔵
佐和之
又蔵

八幡三郎
多賀人
敦盛
坂なた

三日目

翁　千秋萬歳三番叟

東方朔　四三ケ　又蔵

経政　中川修理亮　勝彦

松風　四三ケ　左吉

鉢木　佐野次郎　左吉

祝言

嵐山

佐渡狐

縄ない

止動方角

小林平兵衛

大槻玄沢　平助

四井光三郎　玄仲

三ケ　権太

春彦　林次

植彦　作次

伊三郎

牧義

小林平次

安彦

○菊妻橋附雪共屋敷の儀は小屋の指好ニ而
同様ニて向側横附ニて茶屋を当なく甚狭く
右共屋敷の如の横附ニ而も付而ハ出来や否
十二月大入ニて市川振古郎
庁景山六郎友吉川花友市川つる郎蔦蔵光右と
来りて大酒りや乗ふくハ別条ハあり

○廿四日二十七日あと　大宮御殿後山ニ而遷宮祭
庁余興ニ而ハ弥のかの大旗会ニて社前の賑ハ
白壁のごとく地打をこきり拍子ハ
神幸の附ニ而ハ大みく囲ニて
時供ニて市川くと

匹夫の男女をつかさどり神代のむかし豊ひこほこ
作る神皮田宿丹波る神廟をひらく家の奇瑞
あるよし

○三月十四日午の刻比地震あり

○同八月亜相橋作島橋掛直る橋の擬宝珠の花
皆をおるうりを人今年石かて造る

○此彼岸おて打首ふるう一去の静世
今をかぬすみ〳〵うまる
光ゆつく今をうのをし〳〵めて

○五月朔日雲雨神祭ふ島の塔道等を動て男女
数ひ馬数多し大坂よる数をたふ後

○本馬　牛三村ふ引
二疋　七カ二百駄　百余人

右京坂いろくの品ふ紅天鵞絨紅編組
ふまて祭ふ牛を切分放
て御を今ふてふせ

○本馬
二疋
長刀
百振

発取ふ出をて京坂ふ
上ふる満ふちのめんふ第或記援扇の品を
いろ〳〵ふ穏をれ今ふ祭ふの編組或々上
さまの改附被
百振扇を加

○本馬
四疋

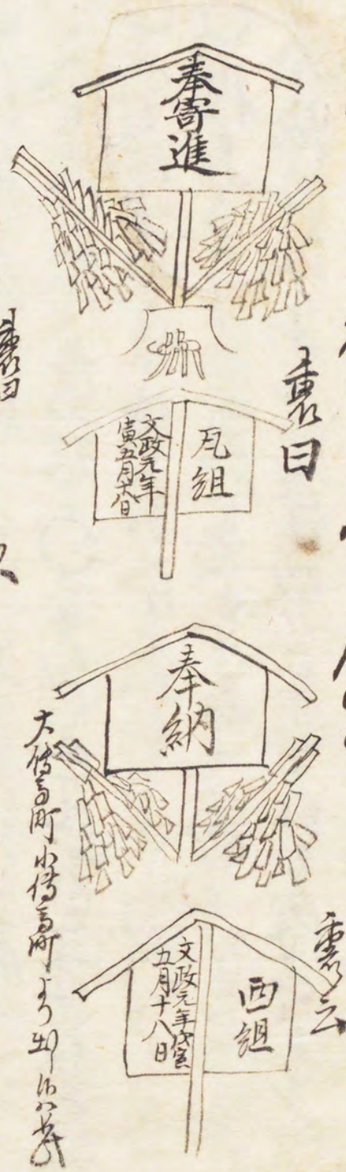
人数三百人七カ二ふあふて中沙汰や
京坂の祝ひ陸
百振扇等の
右日雲の馬の塔々百七年
祝ふ日雲ふる

五

なるゆゑあつてみて仕出し
ゆうなる小今より四年以前日本一
を飛ぶて歌舞のだしをつけ
巻組めて天下喝采をあつさなけるをやうく
みせゆうなるよう又此今年も大の歌舞男ひいき
みくらべ評定あるよう仮面も沙汰あるにおそ
今年も春組と号し馬鹿芸尽
真先小歌舞伎の名を組と号し馬鹿芸尽
を組して出ようなるをつせ百無存の御沙汰にお達
○忠天智城市天狗二千人程

俄島の教戒

○俄島三年寺詣供養ゝ為三千人程
○大筆作鬼祭の執行一群　○狂言の執行一群
○浦城鬼祭の執行一群　○浴衣会の執行一群
○伊勢まいり一群　○奴の執行一群
○金昆羅団参一組　○石園三年二和国浮の執行一組
○八丈絵行列ゝ練物の浴衣一群
○猿楽の執行一群是も去年や
右の外枝葉ゝ数ゝ練物なんあるや
○当ル廿五三年周ゝて七周ゝ馬を出ゝる
宮ゝのひゝ福茶宝蔵の祭ひ両国
江戸の習ゝ紀ゝ多ゝ祭ゝ人ゝて



為ニよせのなき宮町組上下組ゟ上のうさんのある八尾組

○六月廿四日児宿仮役ゟ之る者ニ而病気ニ付名和村の舞ふて生活ニ而ハ又ハ生活ニ而ハ

言山楼ニ而ハ彼言山楼ニ而ハ云々

まつりの楼言大きなる

他所ゟ参りて八尾の神輿ニ而ハ

みの祭ニ而ハ吉井村の八幡宮の社家の

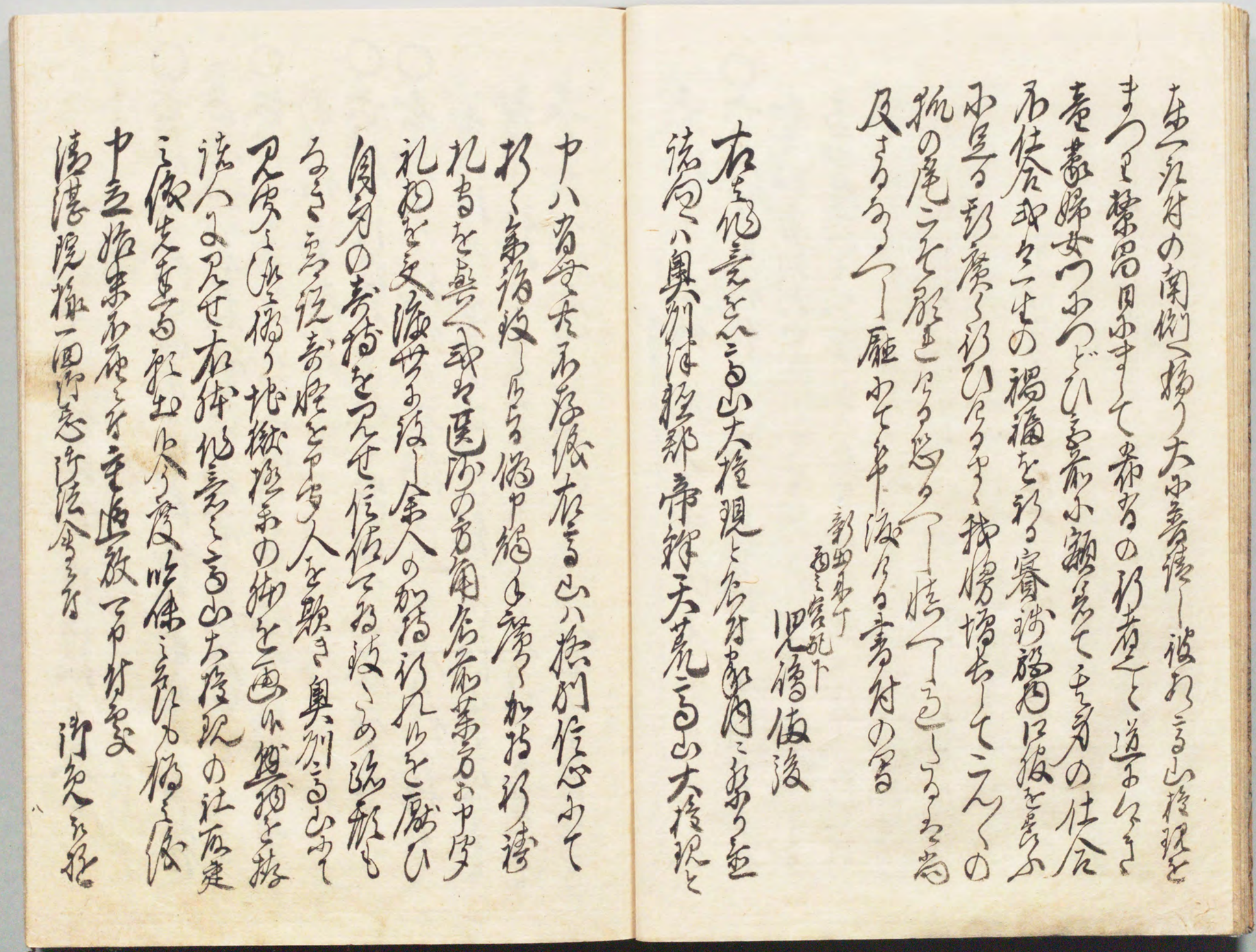
おゐてをゐて児宿仮役ニ而ハ

法を行ひ初ひまつり

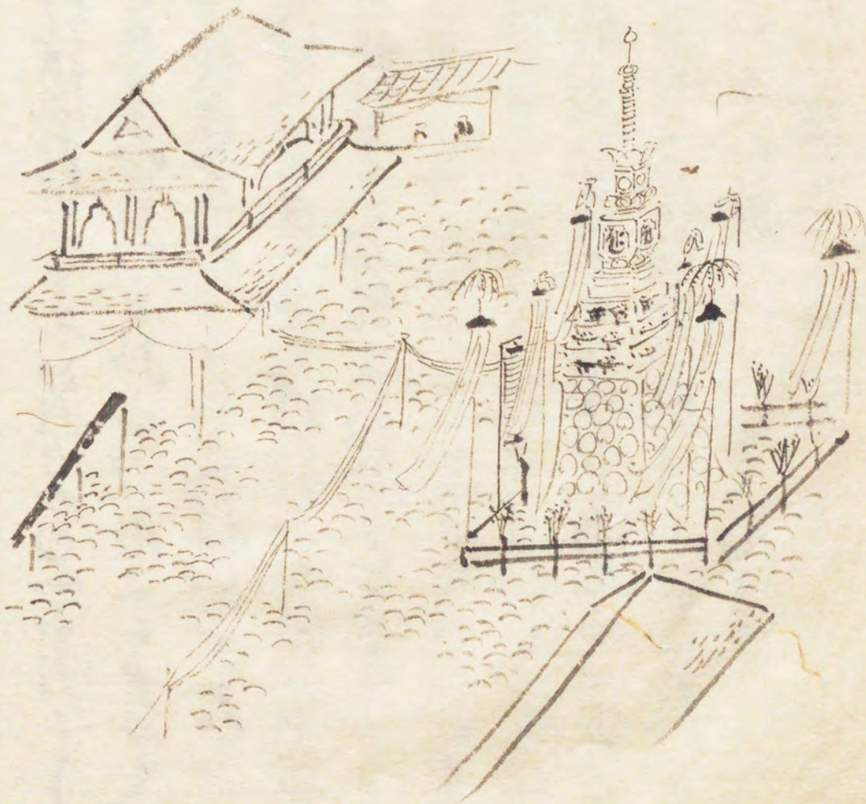
吉井村の住吉神社ニ而ハ

大宿ゟ下 小宿ゟ下

ゟ次のゟ奉納ゟ調ハ又ゟ次のゟ



中退放ち中村権
六月
○六月十日府下
寺へ参詣
○六月廿三日夜
あり仏も
○六月比府下
○去年より
筥松神寺
度〻
三ヶ大
八ハの
あまりの
あて
寺山
てもよ
座寺
旅茶
筥松
旅茶



○六月日亜墨利加船小舶壱艘浦賀へ来る沖合にて所用ありて百万遍ありと云又翌日又翌日と名目延引にて数日滞船ありて帰帆せり其後数艘来る由なれども未だ来らず

○五月日亜墨利加より軍艦四艘来る内一艘は先年来りし船なり此度は浦賀へ入津せず久里浜へ来る由にて久里浜へ出張の諸役人残らず出張せり

○六月日亜墨利加船小舶壱艘浦賀へ来る沖合にて所用ありて百万遍ありと云又翌日又翌日と名目延引にて数日滞船ありて帰帆せり其後数艘来る由なれども未だ来らず

○五月日亜墨利加より軍艦四艘来る内一艘は先年来りし船なり此度は浦賀へ入津せず久里浜へ来る由にて久里浜へ出張の諸役人残らず出張せり

○八月廿日頃東海道所々洪水の由

の世捨ても
○ここに三つさの住ける
妙の書置のこりて
あまりに三つさの
ふみぬりつくる
なりて
海辺
よりて
三つさ
ぬおの
ひよ
ひより
まつ

安の一つもおりそ
ひより
おひおり
理を
三人
もの
三つさ
ひのま
ひう
甲つの
海辺
めひこ
生ま

○今年宮内月次之節祝等ハ
公義御勤有之

表
文
光次
面

裏



厚五厘　銀七分五厘　横四分
同方一文七分五厘

○八月十日朝五半時より前之
焼失

○九月十三日夜拙宅柿壱籠宛
近郷組合頭迄遣之候処
如例年ニ而ハ無之候

○九月十三日松寺稲荷祭礼
日午刻より雨気ニ而ハ
切通一件ニ而ハ無之
○九月晦日拙宅柿遣之
○九月廿三日 正遷宮
被為済又ハ有之候
御祭礼中村入気千石
世ニ言の婚礼
○十月十日幸山寺ニ而
茂八と申者我家の妹を
許嫁(イイナズケモ)ニ
○十月町年寄荒牧宅ニ
引移和町別宅ニ町牧宅ニ

二町

二町

二町

二町

無三匁

非之(ニ)

大作(ニ)

二町

二町

二町

二町

和を施し上ゲ
○十二月廿二日 海上急廻状 四ヶ所 御免許 松平伊豆守殿 松平周防守殿 十九日 御解死 別して御用繁多 御断 御老中 御若年寄 加判 御勝手 御用人 御側衆 御三家 御家老 御目付 御留守居 御使番 御小姓組 御書院番 御小十人 御徒頭 御先手 御鉄砲頭 御持筒頭 御持弓頭 御小筒頭 御普請奉行 御作事奉行 御勘定奉行 御勘定吟味役 御寺社奉行 御町奉行 御大目付

公用

老松

八僊

要宅

令札

○十二月廿八日東八ツ半頃八百屋町板屋火事
寺と西三軒類焼ニ而止ル
○今年十月
岡君ト所実母一物取の行跡不届ニ付
申渡ノ事左之通
川さらへ市谷ノ仕事ニ一ツもし
おもうまゝニさらへとうみとる

若名
八僊那候

○石河太八郎奉仕國務中年數二十ヶ年
の間立派に勤め　御免を蒙
ける時
万石に金庫ちぐる太八めげる
いつもたまりの小八うまうよ

文政二巳卯歳

○元日祭日より近年希なる降雪
○去年よりの事共を奉て仕候ニ付
旧たり稲荷の隠居あ升孫彦兵衛のよし、
米價高下米淡漆　文政二年文政僕
玄海悪疫死者　赤つ永閉大名悪
市農控勢宮兼寺　傷仏餐名虎与牛
許多孫生勤年限

又

莫言多茶金銀　上下融通　大國民
立稼本位政策　角切淳世淑新

（鑑　淡川忠暁　校　田宮重之）

（作用人分　町奉行　此印人分　田宮主ち分　大造主ち分）

（督子　塚田虎　五郎子　琳牛）

（大作及　神乃茶平　平信ち小　此民八茶十分）

御賞代
御出世ヨリ

三十俵両人扶持被下一万石以上之家
アタヘ被モリ

可嫌二て悪敷 町と魂と勢両全
二月二十日 老中水野出羽守上屋敷の角
座候高札 陳者其方儀八ケ年来御預ケ
両中為町方用心 御建ニ相成候 然ル処
怪我人有之候 通行之もの 狂気ニ相違
無之候 深手ニ付死
深手ニ付 太十郎
深手ニ十三ヶ所出来 佐久衛 佐兵衛
ニて死
右之者共儀 天下之為ニ 悪人
在之候ニ付 召捕候 依之如
高札

二子ノ太十郎
佐兵衛ニ付ケ
タヾ右悪八ケ

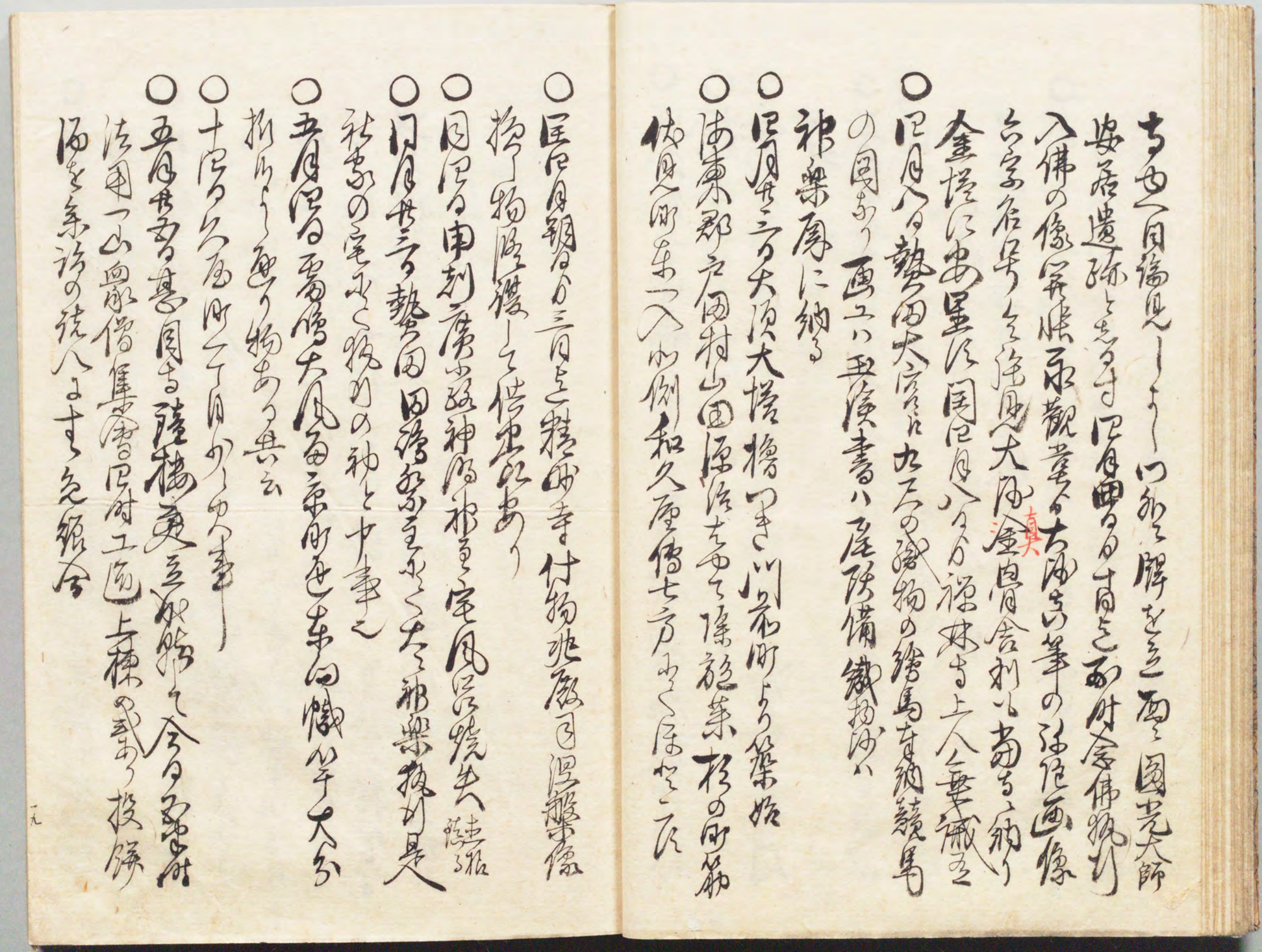
○二月廿日京都より図之ごとく像高さ
尺余の金仏あり 海中より
挙別添届書のごとく申候 先年より
拾四年ニ成ル
極楽寺と法然上人三年寺ある由 今ハ
なくて村の名のみ残りしと 一寺
信国上人 高雄下西芳寺
詰ふるよりて 四地再興の発願あって
建立せし 仏面寺 開基
本像 弥陀 仏 きたる
七月の光明の板 木版摺 栗部の
志願ニて 寺ニ納置 毎年
新ニ摺て 参詣人ニ 与ふる 大

領内新規寺院建立八百余村ニ
府内ニ而ハ専ら禅宗ニ信の
称あるニ而ハ大名村ニ
称ニ而ハ再興ありし
新規彫刻して知恩院ニ
宮様ニ而ハ金子百両
○一昨年東本願寺ニ而ハ再興ニ
入佛供養ありし
本願寺ニ而ハ同断
○一昨年ニ而ハ再興
今年ニ而ハ又
○一昨年ニ而ハ
ニ而ハ

世ニ而ハ異様ニ
○勅願ニ而ハ
ニ而ハ

ニ而ハ
○一昨年ニ而ハ
○同年ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而ハ

○同年ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而ハ



寺西国師見しより以前を去ること國老大師
安居遺跡となる寺にて此度再興の時念佛執行
入佛の像安置せる古沼寺の筆の法花画像
今宝石等をちりばめ大風
金堂に安置せる墨絵国宝大仏
此度入佛執行の節大仏殿の額物の錦蒔絵等
の図あり画工は玉淵書ハ屏風備織物ハ
神楽屋に納る

○此度大須大塔修理川普請より築始
○池東郡戸田村山田淨泉寺付物此度御寺
修復ニて借受ニ相成
○国学の申刻廣小路神明社
○同月廿三日勢田国学者
社家の宅ニて歌の神と中事之
○五月廿日当廣大風雨東西ニ
折ふし雨ニ物あり無之
○十四日ニ雨ニて
○五月廿四日当国ニ諸寺付物此度御寺
法華一山惣僧集会ニ付御寺ニ
御寺を宗旨の法人ニ

○五月廿八日大雷雨仍庭
雷雨馬ふく二軒焼
○江戸侯と検校群書類聚全備して又正続を撰
とに是おのりて法印の称号を賜
勲四の用四紙を一具して
群書を大半写して入
写し用ふる古往の
当和河村氏蔵書又群
の秘書も写し

○小判吉凶判断之
松月六月朔日九月晦日之通用ス
○今年町触左ノ如ク二季ニ通用ス

来申ノ分	せい	但シ	さゝや	但シ	その
但シ酉ノ	佐吉	午ノ	但シ酉ノ	午ノ	きぬ
午ノ	きく	日ノ	午ノ	日ノ	すて
午ノ	友つる	午ノ	三ノ	午ノ	清に
三ノ	もと	三ノ	三ノ	三ノ	忘い
但シ酉ノ	松月	但シ	午ノ	午ノ	あれ
午ノ	忘ん	午ノ	日ノ	但シ	こゝ
三ノ	京	三ノ	三ノ	午ノ	こと
				三ノ	きし

午ノ	みさ	午ノ	午ノ	午ノ	あさ
但シ酉ノ	八重次	但シ	山つる	四ノ	
午ノ	まち	午ノ	まり	午ノ	重す
午ノ	ちの	午ノ	山ふ	午ノ	清水
三ノ	いと	三ノ	るく	午ノ	重長
午ノ	里う	午ノ	山ろ	午ノ	志水
午ノ	八重	午ノ	きぬ	午ノ	大清水
午ノ	里ふ	午ノ	のふ	午ノ	大清水
				安永丙午	大星七人

午ノ　市太郎
午ノ　権吉　八重次ノ夫
午ノ　久兵衛
午ノ　服吉

志水　三沢
まち子　金蔵
いね子　清兵衛
門　半蔵
門　平八
八蔵　治兵衛
みち子　平五郎
聟　喜兵衛
治郎吉　忠七
松子　万吉
権七　清七
芝金杉新シ

すま子　春吉
門　源兵衛
蔵　金蔵
清兵衛　久米
門　吉七
万吉　又吉
いね子　新蔵
大助　権蔵
小米　伊八
蔵　安米
つま　小米
聟　権七
門　徳吉

柳沢　豊前守

男女総計九八九人
内男総計五四人
女総計四三五人

此度奥一統の世替りにて匹夫一妻を好く勧め妾を禁ずるの令ありより今年の人数改めて数へさせるに増して減少なる

○二月廿九日御行始めおくれ御祝儀の者ある男女ともに赤飯よろこび祝ふ

○二月廿三日病犬あり七人を咬殺す数

○
○
○
○
○

○六月廿二日宮八幡村長右衛門
石垣築
石数多
有之
の時分
心
多く
有之
水溜水
熟田宮地
のく地有
多
小俣親の小俣
多
ちょっと
一寺事也
本寺前常
住
仏殿
の地高八百
弐十
年間
先年
住持
の中八右衛門
敷
地
相
渡
申
候
処
きよ
渚加
カナ
村
住
支寺
一向
宗
寺
僧
加
美
郡
云
伝
法
渡
有
之
候
地
裏

西条
在
ちょっと
一寺
ちょっと
ちょっと
ちょっと

雷震之事

一 某役所東御角井御屋敷の
所右一人ハ行抔ゐさ
裸の者の
有之候ゆゑ

一 御國下御城代組伊
御屋敷
まるうち

一 横三義御屋敷
一 御入部御
一 日雷雨
一 日雷雨
一 日雷雨

一 參御屋敷
一 横堂御
一 廣井水
かゝ
さらく

一 東寺町
をかゝ
御屋敷

一 東寺町
一 横堂御

〇 日雷雨
一 東寺町
一 横堂御

一　先年、村田中二丁一軒屋ノ角ヨリ
一　福田寺前ヨリ一ノ橋迄板橋
一　あつさ橋ヨリ
一　小梅村ヨリ一ノ橋迄板橋
一　横堤ヨリ源兵衛橋迄板橋
一　業平橋ヨリ竪川迄板橋

○七月墨田川芦荻の葭芝居をもよふす　（魚天かゝる）

○七月中旬より土手通り往来留　（よいまを誰をよんでくれうあめつちもちぎりにうらぐち地しんかみなり）

○七月廿七日より来ル廿九日迄両国橋掛替

○七月廿七日より来ル廿九日迄両国橋掛替

○七月廿七日より来ル廿九日迄両国橋掛替

○八月二日非人清吉火罪ニ而四月廿四日ニ
火ヲ附ケ有ル
様ニ世ノ二字ヲ
たゝき被
年くるまでみさをあるしば
生れも死るも
共ニ雪ぞふる

○八月朔日より二十七日の
ある国姓うり
文武天皇の
国学校令の
ゐて
道ある
酒天
ちうの
入くる
寺ニ
あて
義中
中ニ
今ゐて
させ

紀州の国日ニ記ス
御代ニ而
千手観音
浦ニ
ニ而
ニ而
ニ而

○八月十四日未八ツ時ゟ雨降出し夜ニ入強く
　雷を伴ひ入半ゟ止候得共翌朝迄折々
　降来る
○八月廿九日の出火ハ矢田合宮大地蔵尊おゐ
○八月廿九日ゟ九月二日迄ニ芸州（山県侯）の妻女（ひでこ）新町前右衛
　元来宿上来ニ而先年ゟ折々
　参詣のもの故ニ而ハ（ケヤキ）の根元ニ別ニ前ゟ
　のこと故男女一人を生ニて捨候ニ付
　つれ帰りをうしなひ候ニ付引取候由

○七月廿八日東照宮ニ而大江戸の櫓（ケヤキ）長谷
　川本橋ゟ川口ゟ出火ニ而本町ゟ伝馬町ゟ
　二筋ニ家を焼通り新橋角ニ而ハ
　海中ニ而ハ焼止ル
○八月三日ゟ七日迄ニ福地村東海寺ニ而白米ニ
　て施行有之
○八月九日ゟ十一日迄ニ金泉院ニ而秋葉三尺坊
　御祭礼

挟み込み

○九月十五日、薬師御祭礼、
親類衆へ参候、
（以下欠）

○九月廿八日、本町御通り、中澤弥生吉日参上、人
形屋勘兵衛、十月朔日迄、
御逗留ニ付、
御帳方へ御
届申候、

○十月朔日、御先手組本郷弥一同心あり、

○同日、富沢町小澤藏人と神田連雀町
○十月四日、小澤の妻主婦川原へ遣わす、
（以下欠）

○同月廿五日、去る物両替
○十月十日、ニて宮富宅、
毎年参候事、

○右の通りのお場所、年番
古来ハ
両御奉行
御勤、
中ノ
頃ハ
御年寄
御勤、
惣年ハ
三人
宛、

○牧野備後守様、仮邸
私方ハ、
（以下欠）

不お加と中なる砌利仮初の町図心好句ひて右の者の義ハ対馬亜府より之を対馬亜府より中陸なるおゐて右のごとく

○今年七月廿七日江戸品川駅より青江八百屋が源より青江おなじ駅行飛脚文をもの伝ハ綿

許利

金かなる栄ハあるの物なるのおはよりの若つ

気食に当るもおられたと持をあひ栄ハたと始ハ

楠の枝よりあ栄ハ今年さひハ栄ハ今年さひ

卿人ものつう徒なるうかけつとれぬと勇を思ふ

日暮気分ハ今年ハ世空入てらひ始をおり

米價安亜古来稀　百文二舛買得帰

勿言豊年如乳鐘　気食腹満起労肥

大坂うう甘

引ハ亜ハ食のもうてるつてもおりる食を

引ハ亜ハ今ハ二の

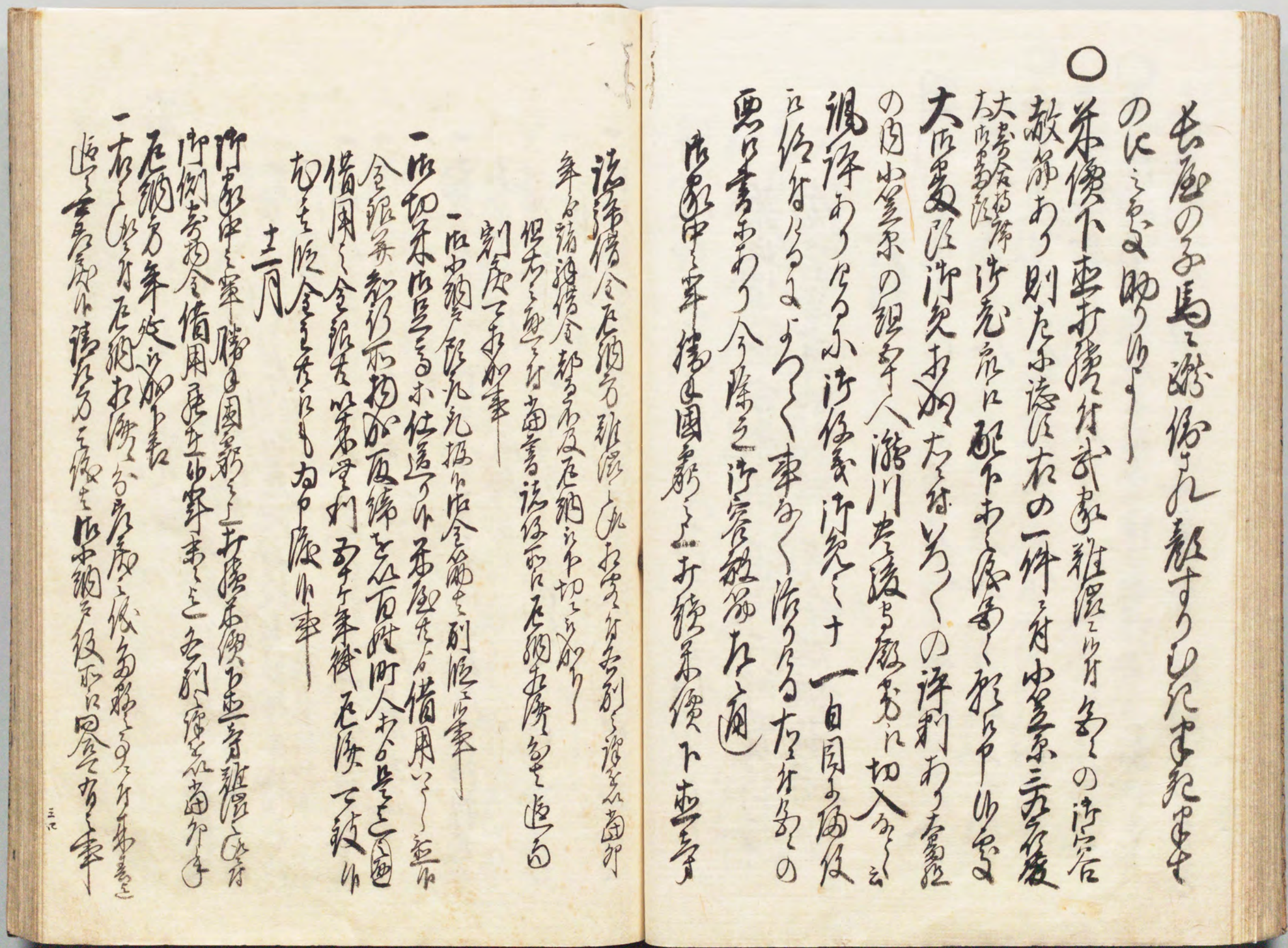
如ハ又ハ識ハ之ハ米亜の亜ハ武士の

汐の風気なるめしもハ武士の

○土月廿日水栄気米ハ中君島よ栄ハ

水ハ西ハ平ハ初ハ小ハ辻曼前よ駅村良ハ

五三



一商賣掛ニ而滞ニ成候分書付出候事

二月

右之通被仰渡候間其筋ニ而取調候上取計可申候

一未進之分ニ而も無利足年賦ニ而返納致候者ハ其年賦中ハ利足取立候儀不苦候

一未進之分ニ而も無利足年賦ニ而返納致候者ハ其年賦中ハ利足取立候儀不苦候

一商賣ニ而未進之分も

文政三庚辰年

○二月十七日最寺再建開帳の
さまざま流行ぬに付方三前小屋掛
○南条三万九千ぐらの流行す
○あつた天神町五方組三前組出来風
○二月繁昌町新吉原町惣並掛行初る今年ハ
大坂の難波新地の如き物あり
○二月廿三日大坂堂島米市場
取引懸揚張騒ぐ三倍米を出し幕を打
さわぐ事也　花の事也　吉原等も賑ひ
ぬ事ハ無之

右の通ニ而容易ニ治定ハ無之又翌辰年ハ閏有之
年数を初原本の記ハ有之
○十二月廿八日より初雪降積る事ハ稀ニ有之
○同日より利屋願出来ハ出来七軒限る
○十二月廿日ハ前ニ申通ハ無之事ニ有之

文政廿六年より天保元年迄五年中
御用ニ而上京中之事

○國元より飛脚の飯子
百目水晶の数珠
硯小箱 作者江戸
思召の通 詰合職人
○三月九日十日 廣小路 庚申堂 金毘羅 開眼 供養
○三月廿三日 谷中 感応寺 仁王門 棟上 同日入佛 供養 六八日延
法會九日ニ而 天気
見事ニふり 十六らん
初日ニハ 十六らん 一般
中興の 祝 入佛
筒ニ生て 持 同行 四人 先へ
嘉千代 極七ツ半 十九日 即逝 三付 九八日延 物静 二付

僧 寺ヘ行キ衣ヲ着ケ
僧 朱ヲ
僧 貝山伏
僧 貝山伏
僧 鈴青ケヲ
僧 鉢青ケヲ
僧 朱ヲ
僧 日上
僧 日上
僧 日上

諸所開帳日数大延ス

○四月九日萬松寺地内御霊屋出来して今日御名代も有
御開帳牌物門ニ而先手物頭固

○同十二日東の方雷鳴有雨も降出東ハ雪ふり
降ともつらゝ水ありあゝ珍事なり

○同廿一日納屋重兵衛浦信寺ニ三州野寺本證寺
宝物弘通太子遠忌ニ付登り

○五月朔日ゟ本下ニ三条御殿ニ将軍吉宗公御
能ゟ

○五月廿日ゟ廿七日迄三日之間曲馬芸細工之
軽業

○二月廿八日ゟ三月廿日迄之間荒子村神社之
本尊奈良通大仕開帳

○四月廿日ゟ天道ニ光照寺開帳毎日
能ひ日くの群集あり〳〵勝ゟ後ハ町ニ而も
陽気花ニ成ゟ大勢さわく我勝ニ三味ニ太鼓ニ
すり子冬ニ而も踊出る有ゟ松あまた八軒ゟ
市中ニ而も踊有ゟ舩出る有ゟ大さわぎ

文政三庚辰歳

（欠損）
（欠損）
（欠損）

○同時衆善奉行悪事あり

○東福寺小大仏造営の事并供養の式あり

六月廿七日

○碧玉九九大余　○法光仏八尺余　○仏丈六尊十二体　○法光仏八尺余　○同七尺余　○同六尺余　○同五尺余　○同四尺余　○同三尺余　○同二尺余　○同一尺余　○仏菩薩大小数百体

右志者法光僧正の善行也

○二月廿九日中務親王妙真寺へ行啓あり

同三月二日朝六時還啓あり

同廿四日中務親王常寧殿へ行啓あり

物号村妙真寺ハ此の寺の変名なるべし此の外の無格ハ此ものゝ一条より末迄の事なり

尾州中島郡長島山妙興報恩禅寺略縁起

原夫当寺之開山円光大照禅師ハ　嵯峨天皇弟子二之皇子河原院之後胤当国中島ノ城主中嶋蔵人之家ニ生ル幼ニシテ奇方世ニスグレ成長ニシテ出家ニ法ヲ大應國師ニ嗣ノ而後当寺ノ建立アリ或時　梁田ノ宮ニ詣ヲ丸ニ回向ノ帰途神祠ノ破壊ヲ見テ盡ク修治ニ当ヲ是ニヨリテ大宮司入道常端ヨリ社領ノ内鈴康ノ郷ヲ当寺ニ寄附セラレ猶又彼是ヨリ開山塔ヲ十梅院ト号ク四百年ノ歴テ二本ノ老梅ムクリ今ニ至テ寺内福禍ヲアルヒハヲテ梅時ニ花咲葉ヲ生ル霊木ナリ昔弘法大師熱田ノ宮ヲ修ニ至ヒテ識ヲ加ルモノアラン是則我再来也ト或ハ又ハ宮地蔵寺ノ伯持観勝ト云人入定ノ日神童来テ観勝ニ告テ曰弘法大師来リ逢ニ出ヨト見ルニ唯大熊禅師ヲ見ル彼神童則禅師ノ指ヲ曰是則霊ニ弘法帝也ト云終テ神童化見ヘス此外ノ奇端祥ニ記ニ難ニ暴其験ノ如ニ尚禅師ノ行状ノ祥ニ下ニ詳ニ記ス

詳ニセヨ

○抑當山ハ　後光嚴天皇勅願之道場ナリ尓来無二丹誠ヲ抽テ萬歳之宝祚ヲイノリ奉ル
ノミナラス又天下太平五穀豊饒万民和樂ヲ祝スルヿ今ニ至テナヲ嚴密ナリ蓋寺之布地ハ三千三町
六段二百八十歩勅ヲ蒙リテ久我内大臣右大將源通相卿ノ寄進ナリ貞和四年戊子權輿
シテ貞治四年乙巳ニ移徙ノ勅ヲ奉テ寺ノ修ヲ諸山ノ列ニ進ス但シ寺領八百余町當國
分ナレ七堂伽藍ノ霊地ニシテ額ヲ國中無双ノ禪刹ト勅シ玉ヲ妙興報恩禪師之額ハ征夷大
將軍義教公之台筆ナリ猶又免除地ナリ既ニ諸堂落成シテ目ノ二十境ヲ以ス三六覺皇
殿ニハ無礙閣三ハ法雲堂四ニハ選佛場五ニハ蒼葡林六ニハ明暢七ニハ唱山八ニハ雲水
閘九ニハ潮入佳境十ニハ宝所在近ト云常ニ二百余員之衆僧ヲ安シ法鐘稍昌也嗚呼物
換リ星移リテ四百歳ノ今其名ヲ遺セリ多クノ宇大佛殿アリ向ニ云覺皇法殿是也
青雲落成シテヲヨソ十八年其巧ヲ尽コト世ニ希有ニシテ我朝六十余州ニ聲ヲ得タリ来ル人感ヒ
往ノ者感セヌトヲヨソ十ニ其余ノ遺跡語ル二遑アラス今暫ク其大數ヲ取テ記ニ以テ人ノ
巻舒ヲ省

○尾州中島郡長島山妙興報恩禪師時靈佛靈寶目録

△總門

勅額　國中無雙禪刹

△勅使門

長島山　唐筆

△山門

寺號之額　當寺大禮越足利義教公台筆

△佛殿

本尊釈迦佛　左普賢　右文殊　大宮形

特國天　弘法大師作　多聞天　傳形大師作

張大帝像　左靈沢大竜王　右大權修理菩薩　左圓通大応國師　右圓光大照禪師　達磨大師　普慶禪師　画師不詳

涅槃像　一幅　釈迦八相曼陀羅

△閻山塔十梅院昭堂

閻山圓光大照禪師生前頂相

地藏尊　定朝作　閻山圓通大応國師生前頂相

列祖ノ画像三十三幅對　孔雀香炉　明朝製ス南禪寺芝甫和尚寄附

△客殿

○如意輪觀音　定朝作○文珠大士　同作○帝釋天　行基作○韋駄天　運慶作
○阿弥陀佛　慈覚大師作○不動明王　弘法大師作○觀音大士　安阿弥作○佛舎利
○足利尊氏公髻觀音（義教公御奉納）○無施浄光若○後光厳院御震筆一幅○後
奈良院御震筆○後西院御震筆○開山禅師光院皇章御震輪一○開山大
應國師墨蹟一○開山大照禅師同三○当寺中行支一○開山行状并妙真寺之記
○當寺寺領目録一○大唐諸伽藍之圖二○中興圓明國師自賛像二○圓
跡二幅宏国師墨跡一○大衆開極法雲和尚同一○南禅寺第一山和尚同一○永
平寺道元禅師牛跡一○大燈國師墨蹟一○同花押之幅清巖和尚奥證一○休
和尚墨跡一○大徳寺澤菴和尚同一○同清巖和尚同一○同乾英和尚同一○同天祐
和尚同一○同玉舟和尚同二○同天室和尚同一○同堅岑和尚同一○圓覚寺春渓和尚
同一○建長寺古剣和尚同一○東福寺第六隠和尚○建仁寺天隠和尚同一○大宗汎
圖虎関和尚筆一○慶甫号建仁寺九淵和尚筆二○諸山號圓覚寺策彦和尚筆
○悟渓大和尚呼書一○仁済和尚呼書一○東陽和尚愚雪二○特芳和尚同二○雪居
和尚同二○愚堂和尚同一○無難和尚同一○至道庵至道哥一○
六字名号玄法筆○九字名号契聲筆○遍知尊人牛跡二○栂尾明
慧上人牛跡○高雄文覚上人同一○小野心海同○第好法師同○新古今之端　慈鎮
和尚筆○金光明経端萱蒸相筆○書簡二幅　運慶作
○近衛信尹公牛跡一○近衛尚嗣公假名文二○近衛家久公牛跡一○鳥丸大納言
光広卿牛跡二○烏丸（二条）同一○小野通風同○四辻大納言殿和哥二○松鳥井
榮雅公和哥一○後成公九十賀和哥一○前權中納言持豊公和哥一○和哥四天王
頌阿牛跡一○利休居士呼書二○武藏坊弁慶牛跡一○大閤秀吉公第当一○
同自筆之和哥二○足利尊氏公牛跡二○新田義貞公御同○武田信玄入道同
○中将政宗一○織田信長自軍中之返書一○織田信長自軍中之返書一○戦国
軍中返書一○蜂川新左門親元牛跡同○薩strike守忠吉御同一○扇面詩唐人
南郭先生筆一○三行物張瑞圖筆一○三行物趙子昂筆一○渥斗像洛陽泉
涌寺開山俊芿律師自宋國將來一○五老圖文徴明筆一○四天王之画天竺國
王之筆四○十六羅漢唐画十六○十六善神唐画二○牧渓和尚虫喰大幅○久珠
善慶（虎五字之筆）○某師如来唐画一○蒲衣之久陽宋古洞筆二○阿弥陀像
法名像筆二○猿（ノ）画賛七言絶句筆二○猿（ノ）画賛七言絶
句筆和尚肖像唐画一○布袋画唐画一○神仙画張志和筆

○人物画趙子昂筆一○騎馬画唐画一○農業ノ圖唐画一○柳三平唐画一○山水圖
夏明遠筆○同呉趙唐寅筆一○山家秋景圖文徴明筆○鷺ノ画五幅筆一
○墨梅楊補之筆二○同雪崖筆一○同閑風鳴筆一○鴛鴦除燕筆一○猫之
胡馬圖趙子昂筆○人物 左芭窯 右松皐 明物揃筆一○右ノ趙子昂筆ノ人物
唐画一○牡丹趙仲穆筆一○右ノ趙子昂筆ノ人物唐画一○元四家ノ花圖一○雉
子岳生筆花圖ノ讃一○松無ノ讃ノ筆ノ○右ノ筆ノ者ノ書ノ筆
○李唐筆ノ人物ノ讃ノ筆一○不知名物ノ讃ノ筆一○猫ノ右ノ讃ノ
筆一○按ニ画ノ如ク可有筆一○
一幅筆一○阿羅漢圖○求南村筆ノ○右ノ讃ノ
仙ノ讃二○又海士ノ筆ノ○渡海ノ
○普化禅師ノ讃ノ○
○布袋画ノ讃二○寿星ノ圖一○
○自鬼圖筆○布袋ノ
自画ノ讃二○和尚ノ
賈化禅師ノ讃ノ筆二○

○聖徳太子馬上尊影○同勝曼経說法之圖一○裏山指得秋月筆一○折葦蘆雁
安陽弥陀佛信筆○達ノ大師友雪筆明藏禅師之讃二○断臂ノ祖久隔寺景筆二○布
袋和尚雅樂助筆一○足利尊氏ノ馬上肖像二○當寺大檀那足利義教ノ御影
京師鹿苑寺瑞溪和尚讃一○大関秀吉ノ肖像南北國師之贊二○裏山宇明
藏禅師賛○三聖人雪舟筆一○
分法ノ像二○出山ノ古画一○臨濟和尚肖像一○寿老人周文筆○山水同筆○
○寿老人夢窓國師讃○神農画筆者不詳○福禄寿尚信筆○雪
法師ノ信筆○朱買臣画師不詳○隠開明洞雲筆○竹雀筆者難記○牡
画同断○蝦蟆仙人画師不詳○張果老ノ画師不詳○脇心讃○蝦蟆鉄拐画師不詳○張果老ノ讃筆
○神仙画師不詳一○鷺ノ画一軸松平薩ノ寺源忠吉ノ御筆一○竹雉足利義ノ筆一
○竹画筆者不詳○竹画范古筆○蓮鷺相阿弥筆二○鶏鶺同筆○蓮某雪奥常
信筆○猫燕友松筆○雀画探幽筆○雀画探幽筆○山水友信筆○唐画
讃万里居士筆○雁鳥画本性禅師讃○巣雁鳥画大愚和尚讃
○従是　綸旨院宣即教書即朱印等
後醍醐天皇ノ境内安堵綸旨○同帝御祈願所綸旨○光明院同綸旨○後光厳院

寺領安堵綸旨〇同帝御祈願所綸旨〇當寺由緒綸旨〇三
室院大僧正光濟綸旨濟綸〇久我内大臣右大將通相公境内寄進狀〇同境内牛馬〇征
夷大將軍源尊氏公安堵御教書同新〇足利義滿公御教書〇
足利義滿公同〇同義持公同〇足利義量公同〇足利義政公〇足利義
尚公〇足利義稙公等寺領御朱印數通
〇後奈良院宸筆〇細川右京大夫勝元寺領諸役免除
〇細川武藏守頼之證文制札等
〇高階仰同〇細川右京大夫勝元寺領諸役免除
階守護不入地之證文〇當山左衛門持國〇當國守護斯
波武衛制札〇同斯波左兵衛督義重入道道孝〇織田出
雲守入道常竹〇織田伊勢守入道常松〇達勝〇尾州守護斯波左兵衛
義淳制札〇清須城主織田大和守同〇
〇織田紀伊守廣近同〇右外箱證文數通
〇古筆巻物五軸〇當寺第六世堂華〇十牛圖〇
後奈良院　後白川院　光明皇后　小野篁　聖德太子　慈恵大師
聖德院通覺親王　後宇多院　伏柳寺修理親王　元島井榮雅
薩六守忠度　紫式部　聖德院通覺親王　元島井榮雅

〇後奈良院宸筆〇國府宮龍宮社參詣倫旨〇當國倫旨〇後奈良
院宸筆〇二宮備中有忠契約狀〇入道宗天同〇武部佐右衛門宗歷書狀
〇與次同〇敕使右衛門同〇勅使柳生兵衛佐宗厳同五〇宗歷同〇入道道寿同〇幸菴二帝
宗歷同〇指揮士衛花衆久枕同〇北條早雲寺宗瑞書狀〇同朝倉孫三郎宗
滴書狀〇平野孝次書狀〇入道宗天同五〇高階經敏同〇僧宗空同
〇清洲城主織田出雲守常松書狀〇織田上野介同〇織田左兵衛尉大和守同
入道宗忠同〇宗成同〇横田新左衛門尉元行同〇入道海老名同〇光玉長同〇
横平入道宗閑同〇新名彈正忠狀同〇菅屋長賴書狀二〇沙弥覺秀同〇
高階春隆同二〇勢田大宮司菅原清延同二又年〇岡山大納言國所御所侍衆法度同二又
〇岡山大納言國所御所侍衆法度同一又年〇岡山大納言國所御所侍衆法度同一又
淨瓶一對〇布袋畫賛岡山御持〇大秀合同〇塙島秀合同〇阿古陀鐘子
中島秀合〇大納言國所御所侍衆法度同一又年〇岡山大納言國所御所侍衆法度同一又

同廣画双〇大秀今屋製一〇人形像紙の犯一件〇中央朝鮮浴一御〇庚申
大年扒一御〇庚申之料紙第一個〇梁花燒酒陳孫家
送一枚〇宝飯大豆海一石〇磐朝鮮升一石〇註南壽今庚午一石〇三重足言
葉屋一面〇神子壽福文社燈〇香爐高蒔絵柄折
酒肴重〇浮牡丹香爐朝鮮浴一個〇并芳矽文紙〇法一字
明製紙筆屋額文徴明筆一枚〇伯重柱法帖
越字扇筆〇京水明二巻松尚堂一枚〇天祥居門筆一〇註祥服参
宝之酔如筆二枚〇杉楊芳海口筆〇型茶監陽宝珠之印筆一枚〇善鳥
浴福口筆〇中央画製二御
右之外無生徒納付物不取之候事
右之通毎年
〇三月廿六日宝永別条山の辺筒寺観花のとき御降雨
〇三月廿四日の巻花
庚辰開運の日　晴明内
辺里のりの

抑十干の庚八金方兄と訓して力卓之則南年の
歳徳ゆく兄方と云ふ也と申の当ゆく金を当る方と八緑起を表してよふ
南の方ゆく去の方則南年の大衆の当）支の
ねと千のねく去生する年也　庚の干
金支の辰ちゆて納音（金）相通年の本命八奎宿
属初ゆえ（あれは乙酉一去年と二十七年
の当八小方二年宿ゆく水を当る南辰より
辰方へ回うつり初る宿星や回年一年めよりづ
事を東宿宿也三月の庚辰の日ゆく回年の東八
鬼宿ゆく当又二年八宿の内の室上の宿まよ

○寛廣井八幡社領内ニて當
七ツ子ノ年ニ大ニ流行ス
ル事ニて
○同所大原大悟遠ニて地築わりて大よ
ソ
○同廣井八幡ニて四無お
廣井村ニ
嗚儀ニ
○五月笠寺二王門供養
○三月廿三日万松寺宝蔵出
ヲ
○同廿五日ニ
○五月廿日ニ
○十月廿七日松枝町ニ
○廿日ニ
○五月十二日ノ夜ニ
所観音建立ニ
○六月七日ノ
○十月廿六日ノ
○廿四日ニ
ル
○五月十二日ノ夜ニ惟喬院ニ西國順礼
所観音建立ニ
○六月七日ノ雨天ニ
○十月廿六日ノ松枝町ニ
○廿四日ニ大風雨ニ
ル
取一軒ニて人ニ
ソリトニ
屋ノ下ノ
ケ入

○
○
○
○
○

○
○
○
○
○
○

○九月廿七日夜八時ふるやの町出火
　　神田佐柄木町
　　鍛冶屋
　　久兵衛
　　宅より
　　出火
　　本郷
　　三丁目
　　迄焼
　　失

○九月廿七日夜八時ふるやの町出火神田佐柄木町鍛冶屋久兵衛宅より出火本郷三丁目迄焼

一坪ヲ買ヒ…右ニテ…

○八月十日…

○七月十八日…

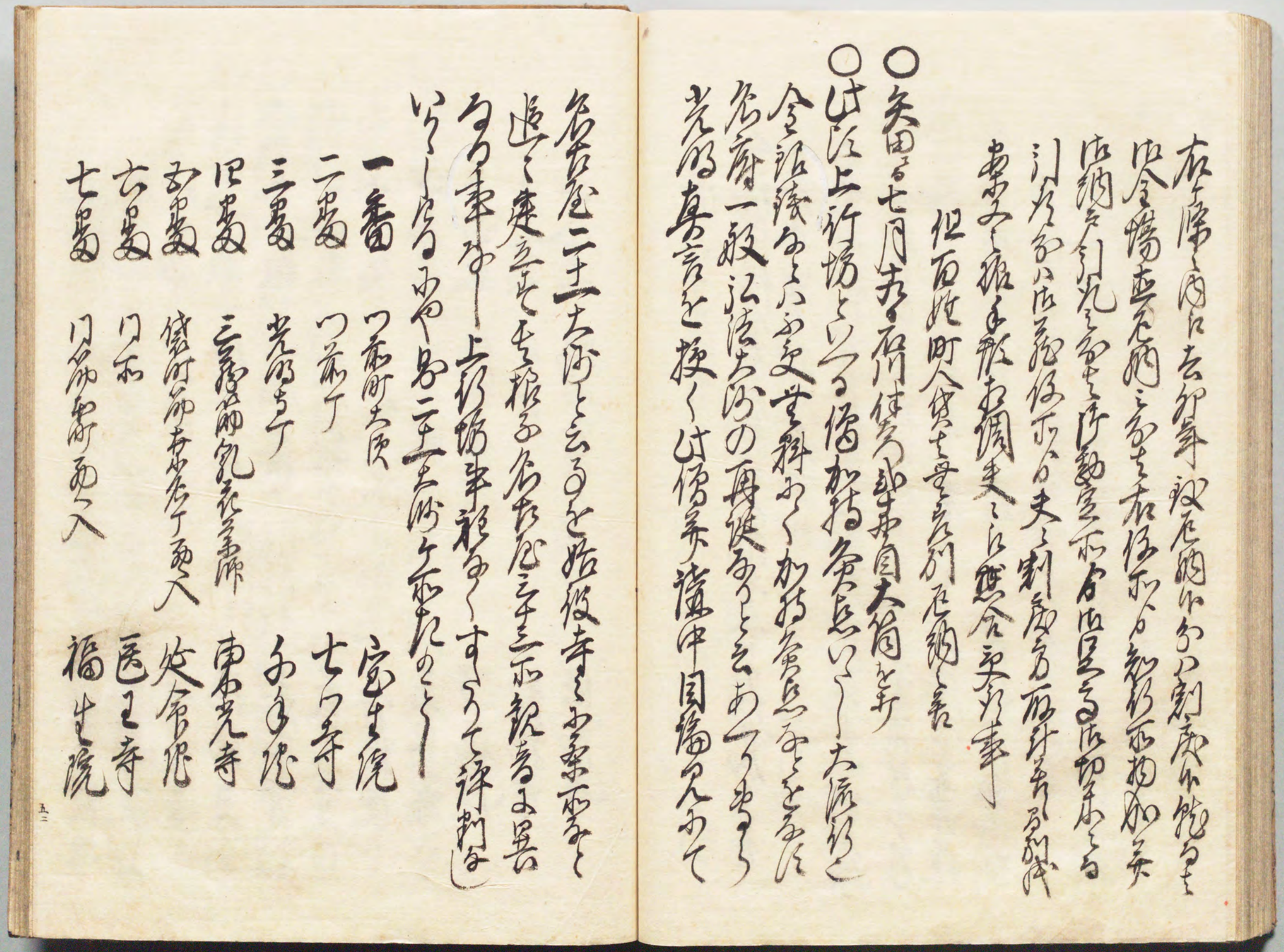
○…

△辰年…

一…年分…

…

…



八ツ半　横寺町　称念寺　入
九ツ半　安右衛門丁　万等院
十ツ半　中ノ虎御門　扶桑院
十一ツ半　押切町　極楽寺　現
十二ツ半　七尾天神　覚鳳寺
十三ツ半　志水町　坂下　福海寺
十四ツ半　もみぢ茶屋　永西寺
十五ツ半　出来町　長栄寺
十六ツ半　瓢箪町下　吉福院
十七ツ半　日重　赤界寺
十八ツ　横町　本立寺　万福院
　　飯福寺
　　法源寺

十九ツ　塩町　地蔵院
廿ツ半　日重　長福寺
廿一ツ　日重本第師　乾漆院

○此度日蓮宗の僧英勢院と云もの寺院を訴えて法論を乞ひ勝負を奉行へ出ず松道子の論天下の評判なりしが、

○九月廿七日和泉町火事　西川端の東側住居の者ども下の方へ出火の節引け本堂前の空地へ荷物を持運びたるとなり

○右の騒ぎ半月の余に及びしと

一吹井戸の風呂屋　長屋の風呂屋

北座

上上吉　かぼそ　きれいさハえのあれ　白き

上上吉　おきく　まうとはまのまつむし　神水

上上吉　おつね　あかさまさうきうへ　衣食

上上吉　おすて　吉原女郎名　おすふ　ひぐらしなどの鳴声　都鄙稀なる

上上吉　おみね　名ハきのおもしろし　おもしろき　弟小納

上上吉　お京　名ハ京のおもしろし　おもしろき　国の戸

上上吉　ふく代雀　ひろふてもらふもの　おもしろき　村所面

上上吉　おあさ　まねの事くさ　おハさ　おもしろき　五川

上上吉　おかね　きれいさハえのあれ　白き

上上吉　おきく　まうとはまのまつむし　神水

上上吉　おつね　あかさまさうきうへ　衣食

上上吉　おすて　吉原女郎名　おすふ　ひぐらしなどの鳴声　都鄙稀なる

上上吉　おみね　名ハきのおもしろし　おもしろき　弟小納

上上吉　お京　名ハ京のおもしろし　おもしろき　国の戸

上上吉　ふく代雀　ひろふてもらふもの　おもしろき　村所面

上上吉　おあさ　まねの事くさ　おハさ　おもしろき　五川

上上吉　真土吉　志げ松　蔭の伴ひおもろく　ものき

上吉　陽路　おもろきれいすきとおく　きし

上上吉　友ね　月夜ふさうく　芸者

上上吉　おすふ　ひぐらしなどの鳴声　都鄙稀なる

上上吉　おきく　おのれハおもろきかな　国の戸

上上吉　お陽き　ひる日あつめあつめる　村所面

上上吉　おハさ　あかさまさうきうへ　五川

上上　きぬ

上上　おとう
上上　おき
上上　おもと
上上　おかう
上上　おもん
上上　おせん
上上　伽羅
上上　おちう
上上　おせん

上上　おみさ
上上　おもと
上上　おもん
上上　おかう
上上　おもん
上上　おせん
上上　伽羅
上上　おちう
上上　おせん

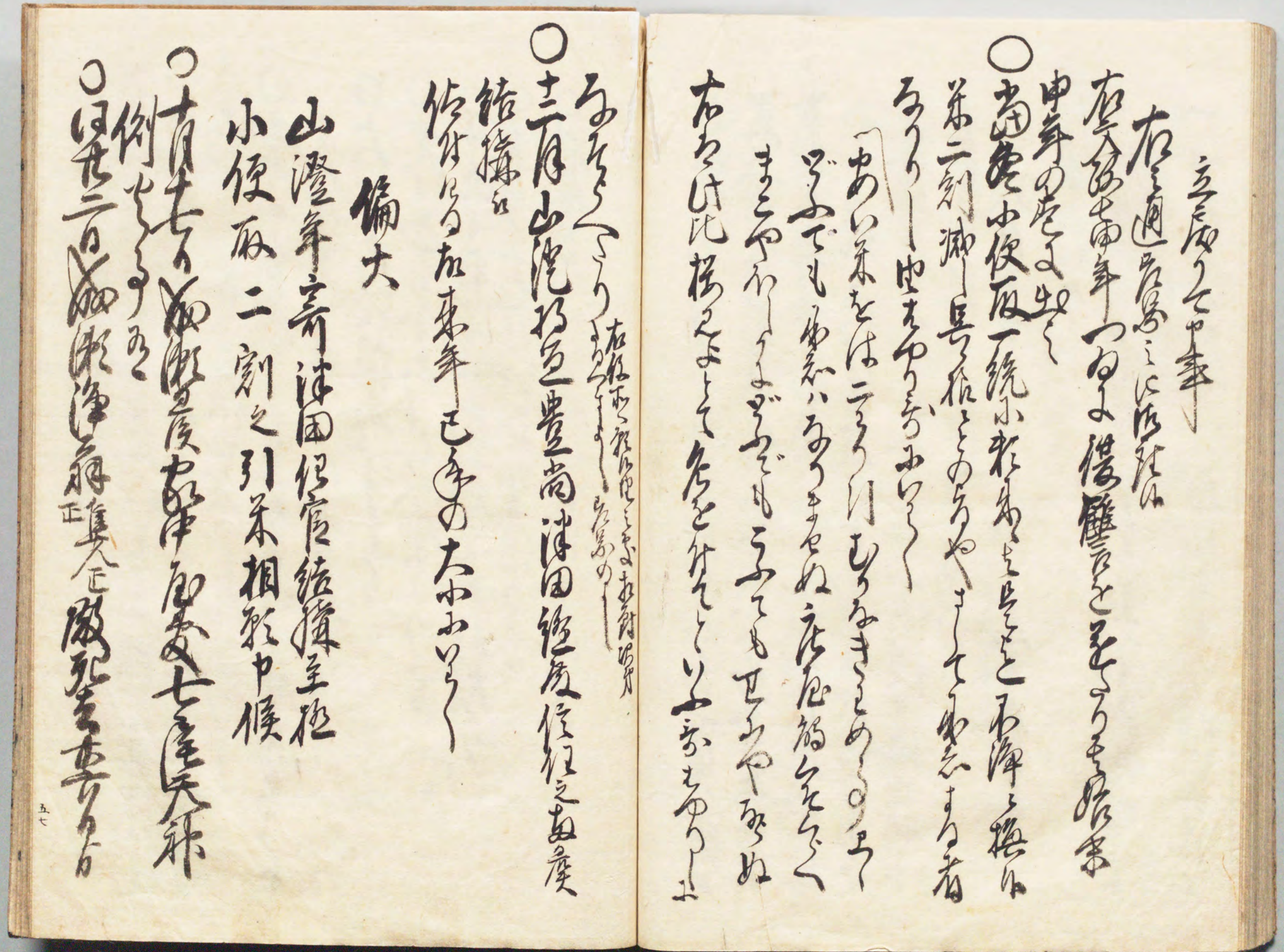
上上　おみさ
上上　おかる
上上　おけい
上上　小つる
上上　おつる
上上　おまさ
上上　おきん
上上　おちう
上上　おきん

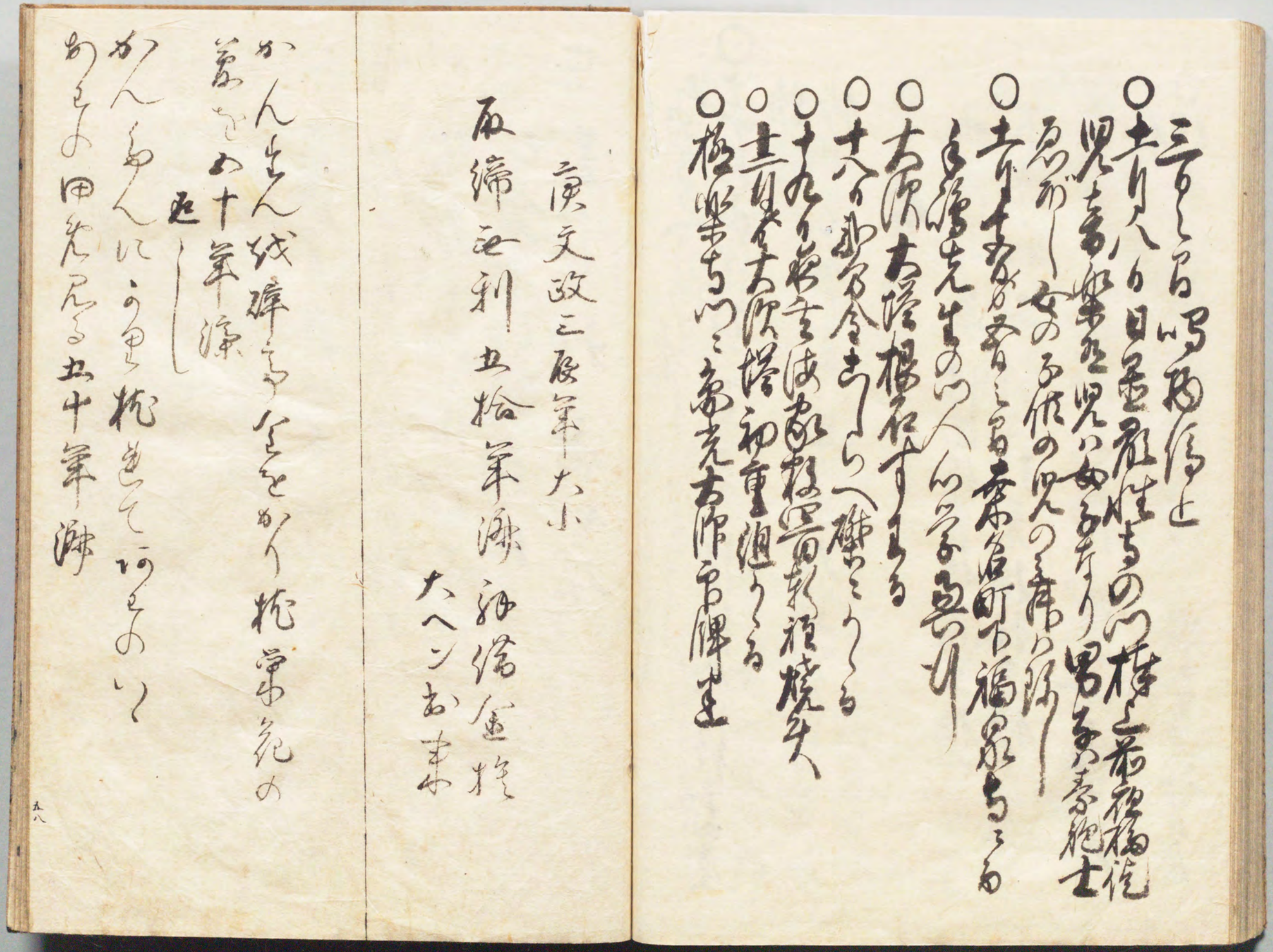
上上　おとう
上上　おかる
上上　おまん
上上　小てう
上上　おつま

上上　おとう
上上　おの
上上　八重垣
至上上吉　八重垣

南坐　上上書　南部侯之郎
久しく安否の之旨　御手を
○去年十月在江書状を以
大久保加賀守殿御屋敷
書状を以

南坐　上上書　和下書
御手之旨
大久保加賀守殿御屋敷
以書状
御国元御出立之節、去ル七月橋野ニ而御
万助儀、従御本陣
御届ニ而御帰国
御出立之節、御
御届ニ而御帰国
御出立之節、御
御届ニ而御帰国
御出立之節、御



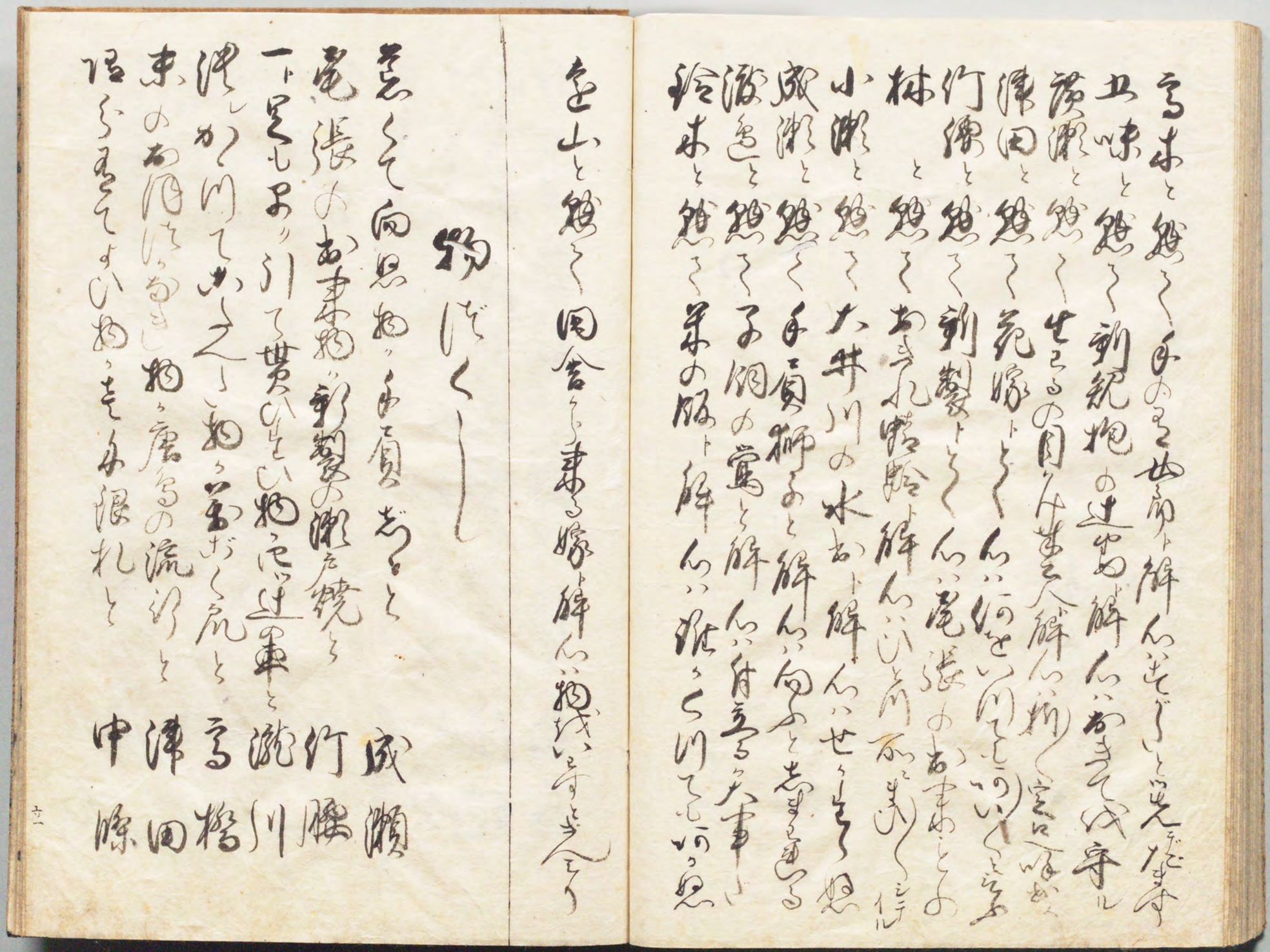


一、
二、
三、
四ツ
五ツ
六ツ
七ツ

ハツやもりにこめさ
九ツ
十デやくみ

御書付之写

小笠原二九郎



物よみの事
るそくそんと申に而
やみくもに人のいやがる物一
おすつかいの物銭と名
そてをいわう角力
金毘羅宮と申上る神の
学問に出る物の吉凶
出ぬくで探しよく物
おはらひ所で打ちわる
打て出る物の所
山沈
梅三
小瀬
五味
弓木
飯瀬
大蓮寺
山吹
月ノ瀬
鳥石

猫の尾てし学人今
今ものくとてわて人
おもてをかいて
猫人の形と田文
猫没の処
水茂
病人と
小笠原
うら兵庫の孫と

武家の元服
物いとなかる所
向後よろしく
帰る世の中に何の事
有古に於てはいやひ

雑談
大佐山岡霊寺
三儀

雑談

大佐山岡霊寺

三儀

神

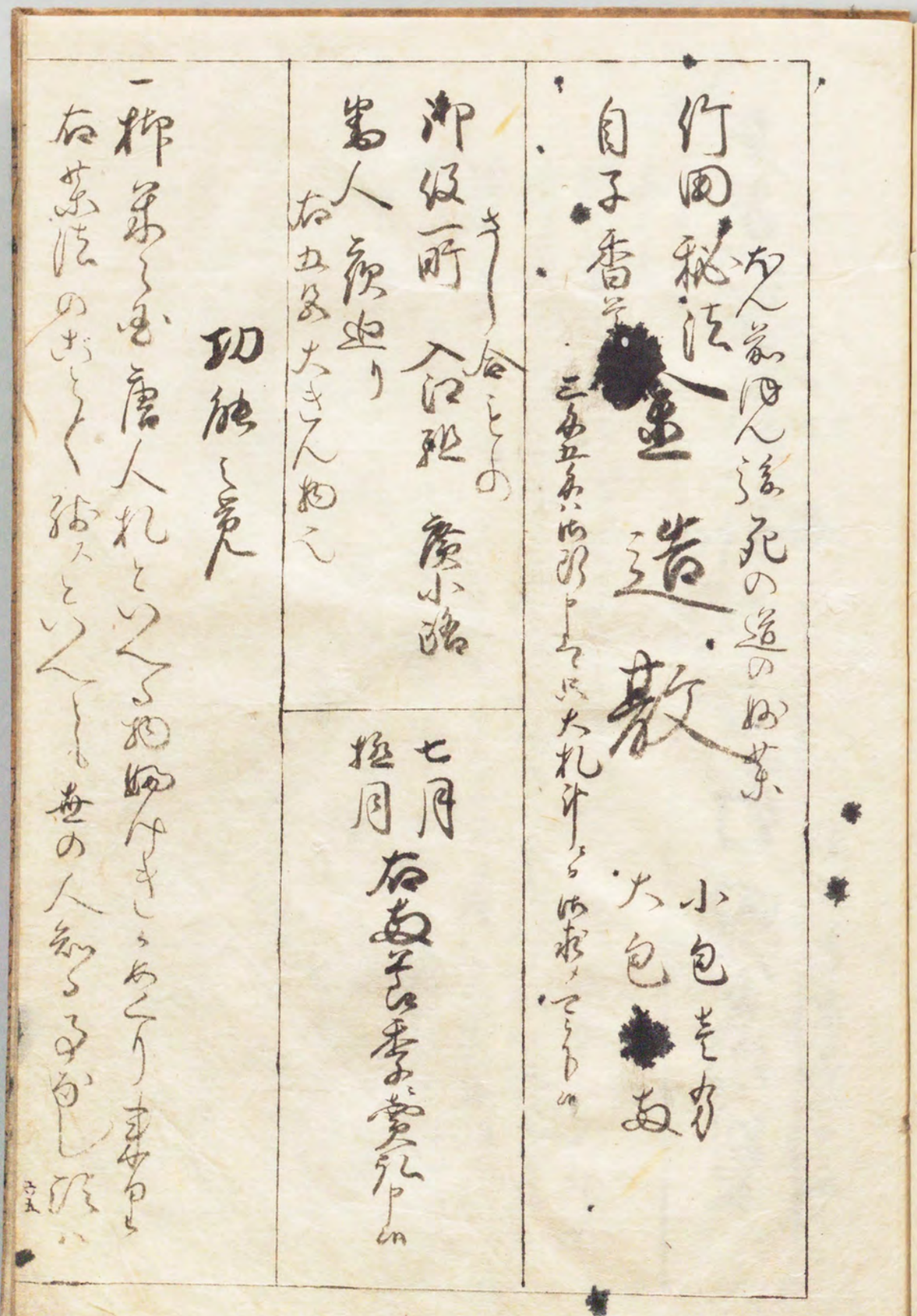
宝物

一　中源院家伝来之　一軸

一　新田金之　具足之内　兜之

月雪　つゝ元の俤ぇん
山城　せきき柏
田米　紅沢

張揚句一扁
ぶしてそし句也
日本詠て有る



行田秘法　金造散
自子香竹
二色五衣此那ゝて大札汁ら出来ゝてうゝ

小包壱分
大包　百

御役一所　入江殿　廣小路
當人病気
右之通大きゝ人物ゝ

七月
指月　右衛門

功能ゝ見

一粉薬ゝ壱唐人札ゝいゝる
右薬法のおゝゝく猶ゝゝいゝ

人皇六十五代花山天皇ようりの元へ百つゝねむねのいゝ大根を献上せしに、御感のあまり、御口まへ大根と名付給ひ、夫より御家一家記録帳面に御口まへ大根と記しるし置給ひしとなん。

御家調合所

信州上諏訪村

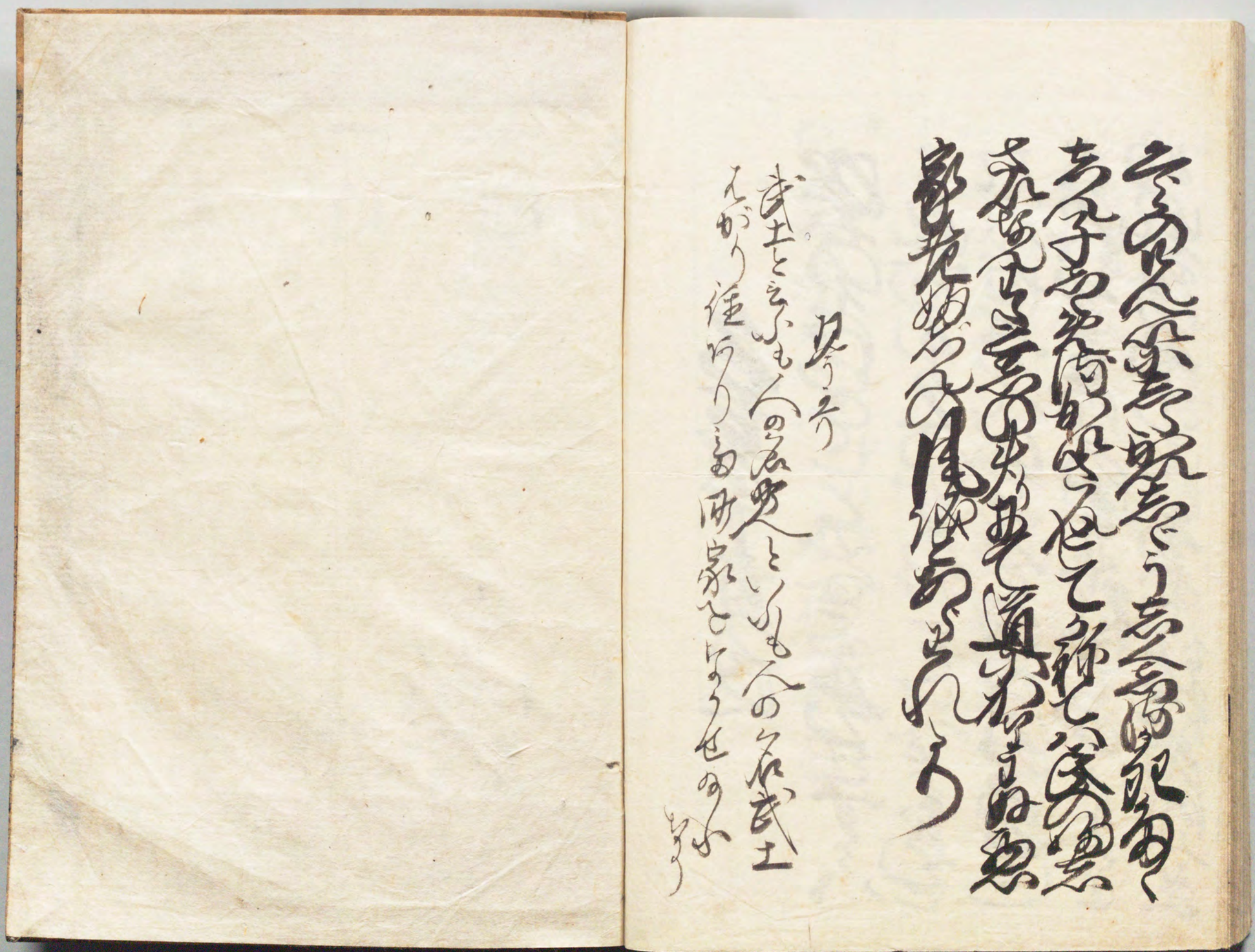
竹田金作製

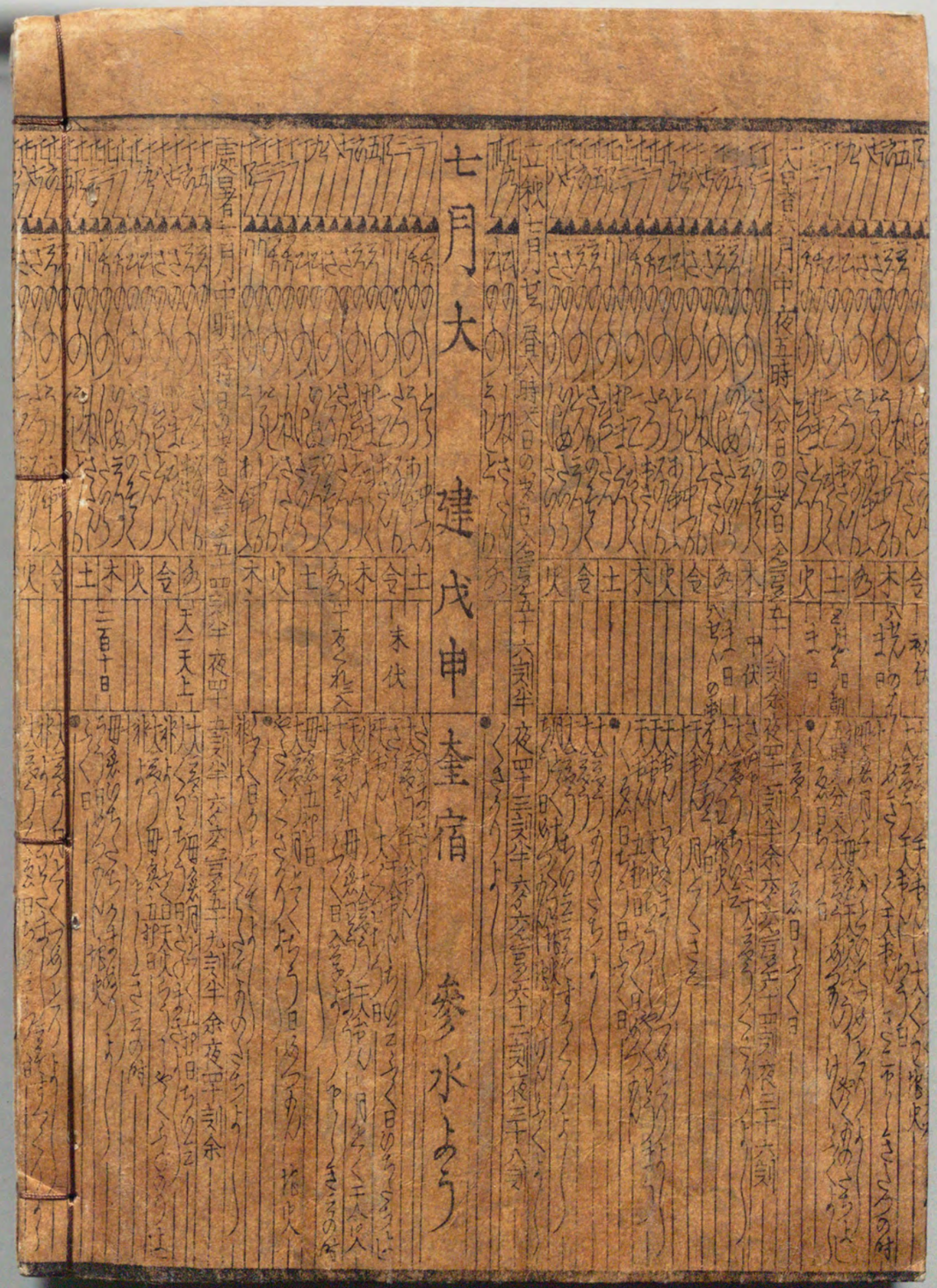
再次発売致候

千金残滓中の茶

一、此茶は御家中にて古人を人々残滓を煎じまして忠勤を仕候ゝ節豊後守様御川津へ御入湯の節も御供仕候ゝ小笠原九三ト云医者を病ひに薬取人に被仰付候ゝ小笠原九三ト云医者を立合ひ候ゝ小笠原九三我が秘方伝を残滓のある神のごとくし候ゝ者や一切御家中にて残滓人へ残滓のあるといゝ秘






七月大
建戊申
奎宿
參水よう